「日々の理科」（第 2433 号） 2021,-3,10

「早春の高尾山紀行（４）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員
田中　千尋　Chihiro Tanaka

地図で見てもわかるように、高尾山の３号路は、等高線に沿うように付けられ、ほとんど高低差がない。このような法面（のりめん）の造り方をするのは、鉄道に多い。特に軽便鉄道や森林軌道は、トンネルや橋梁など費用のかかる構造物を避けるため、このような法面の造り方をすることが多かった。鉄道は急勾配に弱いので、必然的にこのようになるのだ。

３号路を歩いていても、かつての森林軌道の線路跡のようにも見える。しかし、高尾山にかつて森林軌道が存在したという記録は残っていない。

３号路に限らず、高尾山のいたるところで見られるのが「アオキ」である。アオキは小学校の校庭や民家の庭先でもごく普通の常緑低木で、冬に真っ赤な果実をつける。しかし味は良くないようで、これだけなっているのに、ほとんど餌にされていない。私は一つつまんで匂いをかいでみたが、甘い香りはなく、単なる草の汁のような匂いしかしなかった。

露木先生は、アオキの果皮をつまんで、中の果肉を飛ばす遊びを教えてくれた。果皮と果肉は容易に離れ、うまくやると数メートルも飛んで面白い。

３号路には「ウラジロガシ」の樹が多い。ウラジロガシはブナ科の常緑広葉樹で、名の通り、葉の裏が白っぽい。何かに食べられた跡（食痕）が見られた。

キジョランの葉にも食痕が多数見られた。ほぼ例外なくまん丸な食痕だ。露木先生によると、これがアサギマダラの幼虫の食痕だという。確率は低いが、こういう葉を裏返すと、幼虫がいることもあるのだ。